

イネ科を食害する害虫「ツマジロクサヨトウ」の防除等を求める意見書

もともと北米大陸に生息するといわれていた害虫「ツマジロクサヨトウ」が、ここ石垣島にも生息していることが、令和元年8月28日にサトウキビ畑で13匹、8月30日に緑肥用ソルガム畑で7匹確認されました。「ツマジロクサヨトウ」の被害は、サトウキビ、緑肥用ソルガムだけでなく、全ての稲科の作物にも被害が拡大することが更に懸念されます。

国内では令和元年7月に鹿児島県で初めて確認されて以来、九州全域に広がり、東北地方の福島県でも確認されており、県内では恩納村の飼料用トウモロコシ畑で幼虫が確認され、多良間村、八重瀬町、宮古島市でも確認されています。

このことから沖縄のサトウキビ産業、畜産業、稲作などの基幹産業に大きな影響を及ぼすことが大変憂慮され、第1次産業への被害拡大を防ぐためには早急な初期予防対策を要するものと考えます。

よって、当市議会は、下記の事項について早急に取り組まれるよう強く要請いたします。

記

- 1、石垣島での「ツマジロクサヨトウ」の発生情報、防除方法等を広く広報していただきたい。
- 2、関係機関と連携し、その防除策を調査研究・検証できる体制を早期に整えていただきたい。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

令和元年9月17日

石垣市議会

宛て先 農林水産大臣、沖縄県知事、